

2015.8.30 年間第22主日

人間の心から、悪い思いが出て来る

マルコによる福音 7:1-8,14-15,21-23

(そのとき、) ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないとい食事せず、また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないとい食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。

『この民は口先ではわたしを敬うが、
その心はわたしから遠く離れている。
人間の戒めを教えとしておしえ、
むなしくわたしをあがめている。』

あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」

それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。」

説教

5週つづけてヨハネ福音書を読み進めてきましたが、きょうからマルコ福音に戻ります。きょうのマルコの7章はパンの奇跡の続き（マルコ福音書上での）となります。マルコ福音を始めに、マタイ・ルカの福音書もイエスは公生涯のうちで一回だけエルサレムに上ります。そしてそのエルサレムで十字架にかかります。（一方、ヨハネ福音では3回ほどエルサレムに上っています）今日の冒頭七章一節ではファリサイ派と律法学者がエルサレムから来てイエスのもとに集まった、とあります。ここではエルサレム=悪いものという暗示が隠されているのかもしれない。

「耳寄りな話」といえばお得な話、いい情報となるでしょうか。あそこの店は安くておいしい、だとか、来週からあの店でバーゲンが始まるとか、実は裏メニューにこんなのがあってね、とかです。どうもこの手の話に弱い人は多いようで、わたしもその一人です。ところで聖書には耳寄りな話、いい情報が詰まっているのでしょうか。きょうの福音を読んでいてまあいろいろななし=情報といってもいいかもしれない、が詰まっていて、なにを伝えればいいかなあとわたしは迷ってしまいました。逆に考えれば聖書は情報を伝えるものか？というテーマもあるかなあと（悪い癖ですが）つい深読みというか、裏から読んでしまえばこうも受け止められるという話を今日はしようとおもいます。

いきなりですが、三角形の内角の和は180度です。三角形には三つの角がありますが、その角の角度の合計がどんな形の三角形でも180度になるという数学の公理です。これをわたしが学校で習った時はこうでした。生徒は先生の指示に従って好きな三角形を紙に書いてそれを切りぬきます。そして三つの角（かど）が残るように紙を破きその三つの角を並べてみるとなんと一直線

になる、となりをみても、そのまたとなりをみてもみんな一直線になっている、これには当時中学生のわたしはびっくり仰天しました。これと似たような言い方ですが、お湯はどこで沸かしても100度で沸騰する、北京でもニューヨークでも同じ100度で沸騰します。（でも山で沸かすと100度以下で沸騰します、気圧が関係しているそうです）

聖書のみことばは真理のことばである、この言い方は三角形の内角の和が180度であるということと同じでしょうか。これを同じであると強弁するときょうの福音冒頭にでてくるエルサレムから来た律法学者とおなじ輩（やから）になってしまうのではないか、という疑問です。はやまわりして結論をいってしまえば、みことばは情報ではない、みことばは数学でいう公理ではない、となります。

0157が取沙汰される季節になるとテレビの情報番組や学校の授業、また職場によっては指導として手洗いの慣行が取り上げられます。そして手の洗い方に正しい洗い方と間違った洗い方があるって云々と説明が続きます。わたしがけっこう気に入った正しい？洗い方は「むすんでひらいて」という童謡を歌い終わるまで手を洗い続けるといったものでした。（ぜんぜんきょうの福音と関係ありません）

律法学者たちはイエスに、手を洗わないのはけしからんと問答をふっかけます。例によってイエスは正面からの回答ではなくより深い議論へと展開するような答えで回答します。（イザヤ書の引用・偽善者のふるまいなど）その後、群集や弟子たちに対して「人間の心から悪い思いが出て来る」と諭します。

手を洗うことは悪いことではありません、でもイエスは律法学者達の手洗いを批判します。しかしそれは衛生問題として批判しているわけではないということです。手洗いを「昔の人の言い伝え」だからという理由で批判してい

ます。だからといって、いわゆる「おばあちゃんの知恵」をイエスは非難したのだと早合点してはいけません。神の掟に対しての人の教えという観点で批判しています。ファリサイ派、律法学者達は神の掟を人の掟に置き換えて人の掟を守ることで神の掟を守ることだとしてしまっていることを批判しているようです。

きょうの福音の最後に悪行のリストがでてきます。これはパウロの手紙（ガラテア5:15）にも出てくるのですがイエスがわざわざこれを並べ立てたのではないだろうという見方が聖書学にはあります。（聖書学でいうマルコの引用句、マルコが福音書を編集するうえでマルコ流に書き加えた箇所）わたしもおそらくイエスはこの場面ではこう発言していないだろうとおもいます。聖書は情報の書ではありません。つまり聖書に書いてある、そしてイエスの語ったことばは真理であって情報ではないのです。みことばをそのまま鵜呑みにして、それを神のみことば、真理であるとするのは、エルサレムから来たファリサイ派・律法学者と同じになってしまいます。いいかえれば聖書のことばは論理のことばではない、たとえでしかいえないのですが、耳を澄ませて聖書に聞き入ることで聞き分けることができるのです。ひらたい言い方になりますが、あえて解説すれば「人間の心から、悪い思いが出て来る」それに気をつけなさいということです。例としてあげられている「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など」にだけ気をやってそれを神の戒めと文字通りに受け止めることのないように、そしてそれを物差しにして自分を裁いたり、人を裁くことのさいようにしてください。そしてこれを物差しにしている人たちからは距離を置く、はっきりいえば、そこから逃げてください。ものさしで裁く相手は強敵です。
